

目的 前報では立体の大きさにおける色相の影響及びトーンと大きさ効果について検討した。その際大きさ評価を求める実験のターン・テーブルは白であった。刺激の背景となる色も灰、黒にした場合、大きさ評価にどのような差があるのか検討し、刺激と背景色の関係も考察する。

方法 刺激の表面色は前報でも用いた日本色研の色相番号4・橙色のP, lt, b, v, d, ltg, g, dp, dkの9トーンと無彩色の各明度段階9トーン、計18個の刺激を灰(N 6.3)、黒(N 1.1)の背景色をもつターン・テーブル上に40cmの間隔で2個ずつ、ランダムな順で提示。シェッフエの対比較法で基準刺激に対し、比較刺激が大きく感じるか、小さく感じるかを5段階評価で判断する。被験者は女子大学生13名。

結果 分散分析の結果は、白(N 9.0)、灰、黒共に主効果に対する不偏分散は大きく、各刺激に対する視覚的大きさは有意を示した。無彩色の各刺激の明度と大きさ評価の関係は、背景色が白と黒の場合、ほぼ直線関係を示したが、灰の場合は中明度のN3からN7で低く落ち込んでいる。このことは背景色に近い値をもつ刺激はコントラストの差がなく大きさ評価が低くなる傾向を示している。

今回の一連の対比較法による立体の大きさ比較の実験では、大きさ評価の基準を無彩色の明度段階にしているのが、背景色として灰は適していない。明度と大きさ評価の関係に歪みの少ない白、黒を背景色とすることが適切といえよう。従って、背景色を白としてきた二れまでの実験は有効といえる。